

令和 8 年度 公開セミナー
「高齢障害者の生活について考える」
～日常生活の中の意思決定支援～

公益社団法人神奈川県介護福祉士会
福祉サービス第三者評価事業部

1. 公開セミナー開催内容

テーマ 「高齢障害者の生活について考える」

～日常生活の中の意思決定支援～

日 時 令和8年8月24日（月）13：00～16：30

会 場 ウィリング横浜12階121・122研修室

主 催 公益社団法人神奈川県介護福祉士会 福祉サービス第三者評価事業部

後 援 一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会

一般社団法人神奈川県知的障害施設団体連合会

内 容 第一部 基調講演 13：05～13：55

「日常生活に根ざした意思決定支援」～本人らしい暮らしを支えるために～

講師：望月 隆之氏（聖学院大学 准教授）

第二部 現場からの実践報告 14：05～15：10

障害者施設の現場から

「意思決定支援にかかる取り組み」

発表：宗像 喜孝氏（社会福祉法人藤沢育成会 湘南あおぞら 施設長）

高齢者施設の現場から

「“納得のいく人生”を支える」～認知症と生きる人の意思決定支援～

発表：コッシュイシイ美千代氏（通所介護サービスほっと 管理者）

第三部 グループ討議 15：20～16：30

コーディネーター：望月 隆之氏（聖学院大学 准教授）

・グループ討議 15：20～16：00

基調講演及び実践報告を聞いてどのように考えたか話し合いを行う。

A～Jの10グループ（1グループ5～6人）に分かれ話し合いを行う。

各グループ、進行役、記録者、発表者を決めて進める。

・グループ発表 16：00～16：20

A～Jの10グループのすべてが、話し合いの結果を発表する。

・コーディネーター/実践報告者講評 16：20～16：30

参加者 56名、講師/実践報告者3名、運営スタッフ5名+2名

参加費 無料

2. グループ討議のまとめ

グループ A

＜基調講演、実践報告を聞いて感じたこと＞

- ・障害者の実践報告、環境が変わっていろいろな体験ができて良かったと思う。
 - ・入所施設は閉鎖的だが、いろいろと体験することが素晴らしい。経験値が大事。
 - ・アセスメント、聴き取りが大事。意思疎通が難しい人ほど有効。
 - ・本人のことを深掘りすることで、職員にも新しい視点が生まれた。職員間で共有できた。
 - ・チームで物事を進めること。支援については人それぞれ差がある。記録についても、表情などの情報がほしい。チームで動くことが大事。
- ◎全員を意思決定支援の研修に参加させている。人によって温度差があったので、すばらしいと感じた。

◎利用者に興味を持つこと。何でこういった行動をするのか？

- ・養護学校の頃の話や家族からの話を聞きたい。そう思っているけど忙しさを忘れてしまう、意識して生活に取り入れたい。
- ・一人の利用者を選んでアセスメントを行い、外出計画を立てて、本人の表情を見て、新しい発見につなげたい。今後に生かしていきたい。外出してみないと、メニューなど本人が選べるかわからない。もっといろいろな所へ行って確認したい。
- ・家族の意見をあらかじめ聞き、外出先を水族館に変更したことがある。障害者向けでない所が多く、下調べが必要。
- ・意思を表明できない利用者が多い。職員が決めているが、本当にそれでいいのか不安に感じている。
- ・本人よりも家族の意思が優先されることがある。ジレンマを感じる。
- ・「私たちぬきで私のことを決めないで」という言葉が突き刺さる。
- ・支援者に都合のよい方向へ向かいがち。

グループ B

＜基調講演を聞いて感じたこと＞

- ・具体的な話を聞いた。思い込みやひとつに絞ることのないようにするなど、あらためて学んだ。
- ・体験してみないと選択できないこと、どうやって体験してもらえるか。本人の聴き取りなど難しいが重要。
- ・どこで暮らしたいか？に重きが置かれている感じ。共通認識を持つことの難しさ。
- ・本人の人となりを知る。地域移行がすべてではない。連携、家族の理解の難しさ。

- ・好き嫌いだけの話ではない。選ぶことのできない人。

＜障害分野の実践報告を聞いて感じたこと＞

- ・情報を残しておくことの重要性。
- ・情報をもとに、実際の体験、行動にうつしたことのすごさ。一緒に同じ時を過ごすだけでも分かる。記録に残す。
- ・記録の重要性、活用の仕方。
- ・いろいろなことを経験している時の本人の表情。意思決定支援を行ったことでの本人の変化。外出した時ならではの関係作り。
- ・担当を変えるなどの工夫。

＜高齢分野の実践報告を聞いて感じたこと＞

- ・さまざまな年齢の人に同じサービス（行事とか）は難しい。
- ・生理的欲求を満たすこと。安定への再認識。認知症は最後に疑うもの。
- ・当たり前のケアの重要性。制限の中での難しさ。チームを組むことでのやりやすさ。
- ・難聴の人への対応。聞こえるように大きい声は逆効果。
- ・認知症の人というより、「人へのサポート」を感じた。
- ・地域移行とのセットになりがちだが、本人の自己決定、望むものを提供する。
- ・できていない部分の反省。
- ・分野は違っても寄り添うなど、丁寧な支援をすることで信頼関係を築くことが意思決定支援につながるのではないか。

グループC

＜基調講演を聞いて感じたこと＞

- ・本人の意思決定が重要ということが大切だと思った。
- ・統合失調症の方の事例を話していただき、今後は統合失調症の方へのアプローチ方法を改善しようと思った。
- ・高齢者は自己決定が難しい。職員が誘導している所がある。
- ・現場でなんでも自己決定というが、もどかしさがある（利用者も支援者も）。後見人との関わりで、本人の意思と言われることにも？がある。最善の利益がないことは、共通認識が不足してしまうのでは？と思う。本人の希望を引き出す力は必要。
- ・手がかりシートの方法が良いと思った。
- ・課題は出しやすいが、エピソードを使うという方法が良かった。

＜障害/高齢分野の実践報告を聞いて感じたこと＞

- ・障害の方の移送方法に驚いた。
- ・エピソードを聴き取りするのは、どの分野でも重要だと思った。
- ・生理的欲求を満たすという発想が良かった。

- ・チームで支援することが重要。支援方法を本人の生活歴から引き出す。
- ・地域の清掃などで「個」として、名前を呼ばれることも大切。
- ・本人のエピソードを知るといことはとても大切。勤務先がグループホームなので役立てたいと思う。

グループD

＜基調講演、実践報告を聞いて感じたこと＞

- ・支援者の思い込み、先入観が残っている支援計画などがある⇒変えていきたい。
- ・利用者の方と職員の信頼関係⇒利用者の方が意思を表出しやすい環境、関係性。
- ・生理的欲求に着目する。
- ・日々の生活をよく見る。エピソードの大切さ。
- ・本人の意思を誘導にならないように汲み取る難しさを感じる。自信がない、あてはめてしまいがち⇒課題、もどかしさ。
- ・「最善の利益」から離れる。
- ・短い時間での関わりの中で、情報共有をチームで理解し、意思決定につなげていく。
- ・「見える化」の重要性⇒言語化の難しさを解消、写真を撮ってはいけないと思っていた。
- ・「好き嫌いを決める」ことではない。
- ・新しいことに挑戦できる環境、自分で決める、できることを手伝う。
- ・生育歴を知る大切さ。

◎支援者、職員の思い込み、先入観が残っている。誘導にならないように汲み取る難しさを感じている。⇒課題、もどかしさ。

◎「最善の利益が一番上」という考えから離れる。⇒さまざまなエピソードを集め、できる限り利用者の方の「最善」に近づける上で、職員と利用者の解釈をそろえる。

◎「見える化」の活用、「失敗してもよい環境づくり」、「生育歴を知る大切さ」、「生理的欲求に着目する」。⇒今後、意識を変えていきたい。

グループE

＜各施設での意思決定支援の方法＞

- ・勝手に外出してしまった方の対応で、なぜ外出してしまうかを知るために、何度か外出に付いていったことがあった。以前やっていたことを知り、本人が楽しめる場所を見つけてもらっている。外出の機会が増えたことで、カギを無理やり開けようとする行為は減ったように思う。
- ・シートの活用⇒①今、聴き取りを進めているところ、②シートを活用せず、「自己実現目標」という名前で聴き取りを行っている、③事例発表を聞いてそうだなと思った。
- ・各施設でも高齢化が進み、認知症の方もいる。
- ・アセスメント、プロフィールを作り、利用者のことを知ることにしている。利用者主体

の自治会。会話ができない方が多いので、ピクチャーカードや目線などで意思を確認している。

- 人手不足による意思の枠のせばまりは問題。
- 高齢障害者の問題について、障害者と高齢者の保険区分の違いによって、高齢になって介護保険になることで、本人の希望にそった生活場所を選べていないのか気になって研修を受けた。看取りのケースもある。高齢者施設へ移行する際、情報の引き継ぎが大切。情報共有は個人を支援する上で大切。
- 共生型施設の存在。

グループ F

＜基調講演を聞いて感じたこと＞

- 「最善の利益」⇒「最善の解釈」。支援者が良いと思っていたとしても、しょせん支援者が考えたこと？

＜障害/高齢分野の実践報告を聞いて感じたこと＞

- 買い物代行で、「食べたいものは？」と聞いても決まったものしか言わないので、それしか買わない。⇒パターンリズム。
- 最重度の自閉症の方、できない理由を探していた。社会との接点の少なさ。少ない経験からの選択。⇒一緒に経験、一緒に失敗が大切。
- プラス思考ですすめる。人はマイナスで評価されるのは嫌。
- グループホームから行方不明になる知的障害者がいる。生活史を探る。何か目的があるという視点。

グループ G

＜基調講演、実践報告を聞いて感じたこと＞

- 本人の意思を白黒はっきりつけてきていた。この人はこう！と思ってしまっていた。
- 意思決定支援って、どう進めていくべきか不安であったが、日々のエピソードから、その人のことを知っていく、理解を深めていくことの重要性を学ことができた。そのように支援を進めていきたい。

◎ヒアリングシートの活用が重要。

- 意思決定支援チームについては、チームメンバーが異動した時、どう話していたことを継続するかが課題。対象者は固定ではなく、全員であるべき。どう進めていくかが悩み（引き継ぎの方法）。
- サービス等利用計画作成について、どこまで本人の思いを吸い上げられているのか、今回の講義で、あまりできていないと感じた。
- 個別支援計画策定会議において、本人のヒアリングシートの情報を共有。本人に関わりのある関係者が集まる。ヒアリングシートの活用が重要。

- 意思形成のための支援が、あまりできていないと感じる。毎回、同じ場所、同じ店を選ぶことも。本人の意思表示は大事だが、経験はしなくて良いのか？
 - 選ぶには体験、経験が必要。そのために形成支援は重要。形成⇒表明⇒実現のプロセスが大事。
 - 知らないから、こんなのどう？とすすめてみても、ヤダと言ってしまう。⇒不安。形成にすすめない。
 - 意思形成のための工夫。本人たちがどのように選ぶのかを、支援者側が分かっておくことが重要。
- ◎本人の「やりたい！」という発言を言葉通りに受け取ってしまうのではなく、その裏にある「何故そう言ったのか」というところを考える必要がある。
- 「支援つき意思決定」と呼んでいる。

グループH

＜基調講演、実践報告を聞いて感じたこと＞

- 昔の施設と違って、普通の生活ができるようになって良かった。個人が尊重されるようになった。
- 障害のある方は、本人の特性が分かりにくい。ヒアリングシートを活用して、アセスメントをしてみたい。
- 利用者が主体となり、やりたいことなどを話し合う。日頃から意思決定支援を行っているため、違和感はない。
- 意思決定支援は、チームを作ってから。それにより結果が変わる。
- 水分不足が認知症状に関係あることを初めて知った。
- 利用者と支援者の相性。現場で利用者と関わりを持つようにする。
- 歩き回る方など、何故か？など、本人の意思を確認し、合わせたケアを行っている。

グループI

＜基調講演、実践報告を聞いて感じたこと＞

- コアメンバーで意思決定支援会議を行っている。80代の利用者の外に出たいという希望に合わせ、高齢者の中で生活する体験、デイサービス利用の体験を行っている。家族は入所施設の利用を希望。体験することは、本人も親もどちらにも大切。
- 本人と家族の困り感が違うところから始まる。本人や家族の生活歴を大切にして、どうやったら納得がいくか。
- 65歳、障害⇒高齢介護の制度に切り替えの課題。本人の意思に答えられない制度の壁。
- 患者本人は家に帰りたい、家族は無理という場面が多い。末期の本人にとって「今ならば」という医師の判断を伝えて、少しの期間でも本人の希望を叶えてあげたいとスタッ

フはいつも思う。家族への遠慮があり、自分の気持ちを言えないという人もたくさんいる。小さな願望も家族に気兼ねして言うことができない。

- 軽度の知的障害のグループホーム。意思決定があいまいになっている。親亡き後の入所だが、一緒に考えていくことが大切。積み重ね、生活歴をおさえる。好き嫌いを決めることではない。プロセス。チームを作る。
- 何によって意思決定が不明瞭になっているかわからないケース。大切だけれど人手不足の中でいくことのハードルの高さ。日常支援に影響が出ないように、どうやっていくか。AI の活用でできることもあるかもしれない。時間をかけずにやっていくこともできたら良い。
- 基本的なケアで、生理的欲求を整えるという視点の大切さ。
- 言葉と気持ちが一致しない、毎回気持ちが変わる人への対応。
- 情報が少ない。体験が少ない。希望も言えない。
- 多忙さ⇒ひとつの施設のみ、職員のみでやるのは難しい。⇒チーム、連携。
- 現場の忙しさ。仕組みとしてはそぐわない面もある（グループホーム）。
- 意識の持ちよう。プロセスを大切に。
- 叶わないことも、何言ってるの？ではなく、まずは受け止める。
- 高齢になったので、高齢デイも体験してもらい、本人の様子を見る。
- 失敗できる環境を作る。失敗させない支援ではなく、失敗した後をフォローする支援。

グループJ

＜基調講演を聞いて感じたこと＞

- 個別支援計画、意思の決定をする時、誘導しがち。ヒントを得られた。
- 認知症の攻撃的な言葉の裏側を知ることが難しかった。
- 自閉症の方は好き嫌いがはっきりしている。障害と高齢では特性が違う。きちんとアセスメントを掘り下げてやっていくと分かる。

＜障害/高齢分野の実践報告を聞いて感じたこと＞

- 試行錯誤しながら、やっている。
- コンクリートの部屋にいた人が、スポーツをできるようになった過程をもう少し詳しく知りたかった。
- 認知症のデイサービス、玄関はあえて段差あり、靴箱は開けている。食事は和室で座位で摂っている。
- 情報量が多いとパニックになるは知らなかった。集中できる環境が一人ひとり違う。
- 人員配置に課題がある。障害者は行動でやりたいことを表現できる場合がある。
- 本人より親の言うことを鵜呑みにして支援してしまっている。
- 障害は入所していても日中活動の場を選ぶことができる。

3. アンケート集計結果

参加者数56名 アンケート回答者数53名 回収率94.6%

問1. 参加後の全体評価

	全 体	障 害 分 野	高 齢 分 野	そ の 他
対 象 数	53	36	9	8
とても良かった	34	23	4	7
良かった	19	13	5	1
良くなかった	—	—	—	—
まったく良くなかった	—	—	—	—

問2. そう感じた理由をお知らせください

<障害分野>

- ・知的障がいのある方の支援に関わる中で、活かしていきたい内容だった。認知症について学んだことがなく、初めて知ることが多く学びになった。
- ・講話からあらたな学びがあり、持ち帰り活かせるような内容だった。
- ・現場の皆様の意見を聞くことができて良かったと感じている。
- ・実際の事例をまじえて説明していたので、とてもわかりやすかった。
- ・“高齢障害者の生活について考える”というテーマだったので、障害サービス→介護サービスへの移行に関わる講義があると嬉しかった。
- ・講義を聞いたうえで、気持ちを共有できて良かった。高齢分野の方とも意見交換ができて良かった。グループメンバーが他職種ではなく、支援員（現場）寄りの似ている所から比較ができて勉強になった。
- ・知的障害者のグループホームだが、利用者も高齢化しているので、とても勉強になった。意思決定支援の大切さをいっそう感じる事ができて良かった。あわせて難しさも感じた。
- ・具体的な話で、写真もあり分かりやすかった。事例発表は、もう少し時間をとり、話を伺いたかった。
- ・まだ自分自身が取り組んでいなかったため、認識の違いを修正できた。事例や同業の人たちの話を聞いたのも大きかった。

- 他施設の方の体験談を聞いたことで、新しい気づきと、前に進む気持ちをあらためて感じることができた。また、知らないことばかりだなと思った。
- 今までには自分中心に支援をしていたと思う場面が、話を聞いて感じた。失敗してもいいので、たくさんエピソードを作っていきたいと思った。
- 意思決定支援について、高齢、障害分野の取り組み、考え方を学べた。
- 意思決定支援を構成する要素、チームアプローチ、わかりやすい情報、失敗体験（思い通りにはいかなかったけれど自分で決めた）の積み重ねが必要。
- 意思決定支援についての事例で、具体的に支援していくためのヒントをもらった。
- 高齢者の分野の話を聞くことができ、参考になった。
- 業種横断で良かった。
- 最善の利益から最善の解釈、この考え方の変化は分かりやすい表現であると感じた。知らないことも多く、学び続けなければいけないと感じた。
- 意思決定支援を実際に行っているが、チームメンバーではないため、実際どんなふうに行っているのかわからなかったため、いつかメンバーになった時に活かしたいと思った。
- 認知症高齢者について、詳しく具体的に知ることができたのが勉強になった。他の施設の職員と話をすることができ有意義だった。
- 職場で行っている意思決定支援の詳細を知ることができた。障害分野の支援員は、認知症の知識が必要と感じた。
- 意思決定支援については、いくら学んでも難しいと感じている。だが、今回の講義でさらに学びを深めることができた。
- 意思決定支援を行う上で、大切にすることや重要なことをあらためて知ることができて良かった。今回の研修で学んだことを職場に持ち帰り、よりチームで行えるようにしたいと思った。本人の意思を汲み取って、支援につなげられるよう、一つひとつの表情、行動に着目し行っていきたい。
- 意思決定支援について、あらためて理解を深めることができた。グループワークもあり、さまざまな分野の意見を聞くことができて良かった。
- 普段関わる方が限定的であり、意思決定支援についての考えや取り組みも少し漠然としていたが、勉強になった。また、他の施設の取り組みも聞けて参考になった。
- さまざまな視点から、意思決定支援についての考え方を学ぶことができた。
- 障害と高齢の横断的連携を継続してほしい。質疑の時間をより設けてほしい。
- 実践報告に対しすごいと感じたが、県の事業が介入し、そんなにすぐに皆の意識が変わったのか？と疑問に感じた。もとの意識が高いので浸透しやすかったのか、チームリーダーの取り巻く力が強いのか、知りたいと思った。
- グループワークのテーマが、もう少し明確だと話しやすかったと思う。障害分野、高齢分野両方からの視点、事例、グループワークができたことが、とても参考になった。
- 答えのない意思決定支援。今日参加させて頂き、今まで白黒はっきりしないといけな

と思っていたが、決定といっても決定しなくてよい！とのことで、好き嫌いははっきり分けていたが、もう一度、排除していた部分を見直していただけたらと思った。

- 実際の事例に基づいた話を聞くことができたので参考になった。
- 普段現場で“あいまい”になっている意思決定支援について考えることができて、本当に良かった。どのように今後すすめていけばいいのか、ヒントをいっぱいもらえたように思う。
- 意思決定支援と大まかにしか理解がなかったものが、より具体的に知ることができた。他の支援されている人の意見を聞くことができて良かった。
- 障害、高齢と対象の方は違うが、目指すところや大切にしているところは、一緒なのだと感じた。その人らしく、その人が思う生活を大切にしていく。その人をよく知り、その人らしさを支えていくこと。
- いろいろな意思決定支援があることを再確認できた。
- 基調講演は、意思決定支援を行っていく上で、いつも大切なことを教えてくれたり、再認識させてくれる。実践報告では、障害、高齢それぞれの分野での取り組みが参考になった。
- セミナーの内容は満足だったが、テンポが早く感じた。もっとじっくり聞くことができたり、質疑応答があってもよいように思った（伺いたいこともあったので）。

<高齢分野>

- 障がいのある方も高齢になってきた時に支援が必要だが、双方の関わりを聞けて良かった。障がいの支援として、開発や見つけられた知識・ツールが高齢に役立つこともあると思った。
- 障害、高齢分野それぞれの話を聞けて良かった。日々やっていることが意思決定支援につながっていることを知ることができた。
- 日頃は高齢分野で働いているため、障害分野についても学ぶことができた。
- 障害のグループホームの話なども聞けて良かった。制度のことにも触れてもらったので、後で調べようと思った。認知症についても理解しやすく説明してもらい、とても良かった。意思決定支援はとても重要。
- 発表者の方々の取り組みを聞くことができ、支援の目指す方向がわかったように思う。
- 認知症状で徘徊している人とみるのではなく、なぜその行動に至ったのか背景を探ることが大切だとあらためて感じた。「最善の解釈」という言葉が印象に残った。今回のセミナーがひとつの解釈になった。
- 自分が考えていることのヒントになった（訪問介護で食事に好きなものしか食べない人に対する考え方とか）。分野の違う人の話が聞けて勉強になった。
- 意思決定支援について、事例を通して深く学ぶことができた。

<その他>

- 3人のスピーカーの方の経験、学び、葛藤からの話がとてもしみる内容だった。他分野

の方と共有できたことも良かった。

- 意思決定支援の最新の動向、考え方、現場の実践事例を知ることができてとても濃い内容だった。
- 選択肢があっても、そのワードがわからず選べないので行っている。名前では呼ばれないのも知らなかった。認知症の具体的ケアを教えてもらった。
- 最善の利益、最善の解釈を知ることができた。
- 講演の話を通して、自分自身の実践の振り返りをすることができた。グループ討議の中で、障害分野で勤務されている方の話を聞いて、実際のところを理解することができた。
- 意思決定支援の基本を再確認することができた。単なる「好き・嫌い」ではないという言葉が分かりやすく印象的だった。実践発表者の話が、とても分かりやすかった。もう少し実践の過程を聞きたかった。
- 実際に現場で支援している方たちの事例などの話は、とても勉強になる。利用者がいろいろな体験ができて本当に良かったと思う。デイサービスの環境はとても参考になった。
- 講師や実践報告者それぞれが、とても分かりやすく現状を伝えてくれて、参加して良かった。

問3. 公開セミナーに参加して、今後、どのような研修会があれば良いと思いますか？

<障害分野>

- 実践報告（いろいろな施設ケース）を聞く、それについて考える研修。
- 意思表出が難しい方（障害）の意思決定支援の事例など。
- 尊厳や人権を学ぶ研修があればよい。
- 今後もこの研修を継続してほしい。
- 施設の高齢化問題に対する課題。サービスの違いの勉強会。
- 共生施設はまだ少ない。特養などでまだ壁がある。看取りに切り替えるにはどうしたらよいか。⇒高齢障害者の生活について考える。前回は地域移行の話と聞いて、また開催してほしいと思った。
- 地域移行に向けての事例報告など。
- 暴力、暴言行動のある利用者への対応方法。障害者の方が楽しめる余暇時間の過ごし方。
- 意思決定について、もっと聞きたいと思った。
- 意思決定について、各分野から事例報告。
- 地域移行に対する研修。グループホームや終活など、老いについてのセミナーなど。終いのすみかとして、障害者の今後について考えていくセミナーなど。
- 事例報告が聞きたい。
- 障害の施設から介護分野への移行などのところをもっと知りたいと思った。
- 知的障害者が高齢になった時、健常者が高齢になった時の違いは何か？

- ・今後もこのセミナーを続けてほしい。高齢分野に勤務する職員に対する「障害特性の理解」を、是非やってほしい。
- ・重度利用者の支援方法。
- ・高齢と障害のもう少し踏み込んだ内容の研修があれば、是非参加したい。
- ・今回の障害の実践報告が今の現場にはない取り組みばかりで、とても刺激を受けたので、さらに詳しく聞きたい。
- ・看取りに関する研修を受けたい。
- ・障がい者の高齢化について。特にダウン症の方の症例があまりないので、他事業者の取り組みを学びたい。
- ・仕事への興味、関心の持ち方（新人や中途など）。ビジネスライフで考えている人への意識付け。
- ・多分野の交流討論。
- ・意思決定支援について、もっと詳しく知りたいと思った。
- ・施設間で状況を話したり、支援について話し合える機会があると良い。
- ・共生型の施設の取り組み（実践方法など）について。後見制度の変更（補助）について、何が変わっていくのか？
- ・看取り介護や看取り支援など、いろいろな研修が気になる。
- ・今回の実践報告の施設の、構造化に関する実践報告を聞いてみたい。
- ・同じテーマで、映像ありで受けてみたい。

＜高齢分野＞

- ・高齢者の方の避難方法や災害時の対応など。個別での対応についての理解の深め方の説明の仕方（新人に対して）。
- ・家族支援について。
- ・事例検証をたくさん知りたい。
- ・災害時の福祉セミナー。

＜その他＞

- ・意思決定支援についての各分野、各施設の取り組みを、より詳しく学びたい。
- ・障がい系の情報、セミナー。
- ・権利擁護（広い意味での）について学びたい。
- ・各施設や現場で取り組んでみて、とても良い成果が出ているものの紹介など。すぐに現場でもできる内容がありがたい。